

安納芋

函館市医師会

ほそだ
細田

すすむ
晋

趣味は何ですかと聞かれたら野菜作りですと答えている。

数年前雑草だらけの我が家の庭を、一時函館に赴任していた娘夫婦に任せたのがきっかけだ。何を思ったのか野菜を作り始めた。土を耕し苗を植えただけのためか、収穫はさんざんであった。しかし、傍で見ていた私のはまった。

近々非常勤に変わり時間的に余裕ができる頃、それは女房殿と接する時間が長くなることを意味する。家でゴロゴロするのは超危険であることぐらいは鈍感な私でも予見できた。野菜畑、これいいかも。時間は潰せるし、うまくいけば美味しい野菜もゲット。早速十坪ばかりの庭を剣先スコップですべて掘り起こし、野菜畑に大変身。ネットとYouTubeを頼りに最後は農家の患者様に指導を仰ぐ。ここの苗がいいとの評判を耳にするとその店に行き、この肥料が効果的と聞くと即ゲット。当初はお金にものをいわせ、いろいろ手を出した。失敗も数々あったが最近ではベテランの域に入ったと自負している。

夏になると畑の近くを歩くひとの半分以上（と私は思っている）は我が家の野菜畑に目を留める。人によっては足を止め自慢の黒光りしたナスをシゲシゲと観察していく。それを自宅の窓からコソコソ眺めている私はヤッターと心の中で叫ぶ。もちろん、収穫は近所のマダムたちにお裾分け。私の評判のうなぎ上り？ 野菜作りの動機はいささか不純ではあるが、子供の頃から褒められて伸びるタイプの私。何たって女房殿との時間共有問題をクリアできたことが心を軽くする。野菜作りは良いことづくめである。

今から2年前の令和3年5月末、女房殿と馴染みの園芸店に行くと見慣れぬ苗。売れ残りのようで店の隅っこで数鉢ひっそり放置されている。見ると「安納芋（あんのういも）」と書かれている。何か分からず店員さんに質問、サツマイモと判明。店員さんさすがにプロ。女房殿にチラッと目をやり最後に一言「甘くておいしいですよ」。傍で聞いていた女房殿チョット反応。この苗売れ残ったら捨てられるのかなと、私はいささか心配になる。ダメ元でやってみたらといつもながら？の女房殿いや女神様の優しい一言。やはり女性はサツマイモに弱いようである。とりあえず良さそうな苗を1鉢ゲットする。

ジャガイモは種芋から作るのは北海道の人なら常識である。しかしサツマイモは違う。20～30cmま

で伸びた茎を、先端部を少し残し土に植える。そこに芋ができるのだ。この時に初めて知る。痩せた土地でも問題なし、むしろ痩せた土地を好むらしい。なるほど鹿児島島の火山灰の土地でもよく採れると昔学校で習った。追肥もいらず、水やり不要。マルチ（黒いビニールシート）を敷いた土に植えるだけで放置、夏場の長期不在でも問題なし。

その年の秋、収穫の頃。甥っ子の子供たちを呼んで芋掘り会。どんなものができているやら。

北海道のサツマイモなんてどうせ・・・と女房殿はまったく興味なし。掘ってみると予想以上の大豊作。半分以上を甥っ子に引き取ってもらい、残りは玄関に置きっぱなし。2～3日後甥っ子から「甘くておいしい」とのお礼のメールが届くが、どうせお世辞でしょうと鼻をくくる女房殿。収穫後2週間して帰宅すると女房殿いきなり「失敗した!」。何のことか分からず事情を聞くと、サツマイモが予想以上に美味しいというより絶品とのこと。甥っ子に押し付けたサツマイモを悔やんでいる。自我自賛になるが確かに甘くて美味しい、その上しっとりしている。スーパーで買ってもしなやかなこれほどの芋に巡り合えない。焼き芋、天ぷら、鉄板焼きの付け合わせと残りを大切に食べたのだが、その度に女房殿の後悔の言葉を聞かされる。

昨年春園芸店へ行く。前年に比べ安納芋の苗の売れ行きが好調のようで、早めに買いに出かけたにもかかわらず残り僅かであった。危なかった。どうも函館の市民にもサツマイモ作りが広がりつつあるようだ。3鉢をゲット、これもまた大豊作かつ美味。甥っ子たちにはそれなりに分け、我が家で心置きなく堪能したしたのは言うまでもない。

サツマイモ栽培は難しくない。日当たりの良い空き地さえあれば初心者でも簡単だ。そのためか太平洋戦争中食料増産が叫ばれたときには、一般市民にサツマイモ・カボチャ作りが推奨された。待てよ、何か似てない。食料自給率38%の今の日本、実態は食糧難。きな臭い昨今になり急に食料安全保障と言い出す。グローバル経済などと叫び、金に飽かせて全世界から安い農産物を輸入すれば済むと言っていたのは何だったのか。自分たちの食料は自分たちでなるべく賄うのが至極当然と思うのだが。

今年も楽しみで安納芋を植える。上の都合で花畑を野菜畑に変えられる、生きているうちにそんな時代が再び来ることだけは嫌だ。